

## 【お尋ね1】 ボランティアポイント制度の導入について

## 要旨

多くの部会員からポイント制度導入について実施した方が良いとの意見があり、ポイントを「貯める・利用する」ことが、活動したことのない方の地域活動支援へのきっかけとなり、活動中の方のやりがいにつながる。地域活動への参加こそが健康づくりであり、ひいては介護予防となる。元気な地域活動者が増えることが人材確保へつながる。

## 課題

- ・ 目的を明確にすること
- ・ 利用しやすく継続できるポイント制度の仕組みづくり
- ・ 対象者と対象活動の決定

## ○お考え

## 1. ボランティア制度の導入について

- ・ ボランティアポイント制度の導入には賛成である。ボランティアポイントは、新しい助け合いの仕組みで「互助」+「共助」を合わせたようなものである。
- ・ 導入時には、誰でもわかりやすい仕組みであることと仕組みの維持管理には「公助」の役割も重要となる。維持管理を住民だけに任せると継続的な運営が困難になりがちであり、挫折感などを味わうと、それぞれの立場でダメージが大きくなる側面が危惧されるので長く継続できる制度設計が重要と考える。そういった意味からもボランティア活動が単発で終わることなく継続させるためにポイント制度は有効と考える。
- ・ ボランティアポイントを早期に導入すべき。
- ・ ボランティアポイント制度に賛成。高齢者も社会の担い手であり元気な高齢者の社会参加への仕組みづくりとしてポイントを貯めることでボランティア活動の励みになると思われる。まだ未定であるが、1回の活動に付与されるポイントはそれほど高くないと思われ、それは活動に要する交通費程度であり有償だとは言い切れないと思う。
- ・ ボランティア活動は、対価を求めない無償の活動とというものの周囲の人々から認められ感謝されることは人間として大きな喜びであり更なる活動への励みにもなる。
- ・ ボランティアポイント制度の導入により、人材確保が期待されることから検討を進めるべきと考える。
- ・ 導入については、効果が見込まれるのであればよいと思う。
- ・ ボランティア活動の3原則から言えば、「ボランティアポイント制度」という名称に矛盾を感じているが、人材確保という視点においては、住民にとって1つの選択できるメニューであり、メニューはたくさんある方がよいと思われる。検討する価値はあると思う。
- ・ 有償ボランティア的な考え方は、よいと思う。

## 2. ボランティアの「無償性」の観点について

- ・ ポイント制度を利用するかどうかは活動者の選択も可能と思われることと有償であっても最低賃金をはるかに下回るなら活動の「自発性」と「公益性」を否定するものではないと考える。
- ・ 有償ボランティアとしてのポイント制を導入する事が、今までボランティア活動をしていなかった方々のきっかけとなりポイントが累積していくことがやりがいや介護予防につながるメリットがある。他にもボランティアを利用する側も対価の支払いがある事で気兼ねが小さくなり利用しやすいメリットがある。実際に過去の福祉ネットワーク会議での意見として無償だとお願いしづらいので、有償で遠慮なく依頼するという意見もあった。
- ・ 昔から「向こう3軒両隣」のつながりから時と共に社会が変わり、人付き合いまでが変化してきている今「ボランティア=無償」という気持ちだけが根強く残っている。しかし、考えてみると人に何かを頼む、してもらう ありがとうの言葉に添えて何かお礼がしたい、その表現の形がポイントと考えると有償化した方がお互いにすっきりするのではないかと思う。特に若い世代には有償が好まれる時代で後継者づくりにもつながるように思う。

## 3. 社会参加活動が自立支援となる視点として

- ・ 健幸マイレージの時に「やりたい！」という声を地域でたくさん聞いた。市民の介護予防への関心の高さからボランティアポイント制開始とともに社会活動参加が自立支援にもつながることの有用性について市民に伝えていくことも必要である。そして夫婦であれ独居であれ、心身の状況が様々な要因によって機能低下し日常生活の手助けを必要とする人の増加が、支える側の人を大きく上回り支援が必要な人に手が回らなくなることが問題である。この制度を利用する対象者を考えたとき要介護認定の軽度者に対する生活支援になっていくと思われる。一般的に市民には介護保険料を払っているので介護保険サービスを利用しなくては損というような意識もあるように感じる。現在の介護保険サービスへの依存度が増すことが、逆に高齢者自身の自立を妨げるものになっているかもしれないことを市民に分かってもらえるような広報が必要である。
- ・ 「ボランティア活動に対するポイント」という切り口ではなく、「健康づくり」に効果的な活動のひとつとしてのボランティア活動がある、という見せ方が間口が広がり効果が上がるにではないか。コミュニティ活動や福祉活動の拡大に伴う一方、昨今我が国では、定年の延長と女性の社会進出が進む中で地域ボランティア活動の人材確保が困難な状態にある。こうした状況を踏まえ人材確保の一環として「ボランティアポイント制度」の導入は、検討に値するものと考えられる。

## ○効果

### 1．介護予防の取り組みとしての社会活動参加へ

- ・ 高齢者の役割創出・健康維持・介護予防としての社会参加の機会
- ・ 高齢者のボランティア参加により社会参加や介護予防につながり街が活性化される。
- ・ 活動することにより介護予防につながる。

### 3．新規活動者の発掘

- ・ 新たな人材の発掘へのきっかけ
- ・ ボランティア活動をしたことがない方のきっかけづくり
- ・ 新たな地域課題や新しい活動などが住民から提案される期待

### 4．既存のボランティア活動者のやりがい

- ・ 既に活動されている方のやりがいにつながる。
- ・ ボランティア活動の『やりがい』となる。
- ・ モチベーションの持続
- ・ 活動の活発化と参加者の増加
- ・ ボランティア未経験者が活動を始めるきっかけとなる。

### 5．住民の「ボランティア活動」への関心と「地域」への関心の高まり

- ・ ボランティア活動を知るきっかけ
- ・ ボランティア活動を始めるきっかけ
- ・ ボランティア活動が健康づくりに効果的である事の啓発
- ・ 活動者が増えれば同じ活動者同士のつながりができる。
- ・ 自分の地域への関心を高める機会になる。
- ・ 活動に対する関心の喚起と意欲の向上
- ・ 地域の活性化
- ・ 目的があるとポイントを貯める楽しみは生まれる。

### 6．利用者の意識

- ・ ポイントにより活動側も受ける側も頼みやすくなるのではないか。
- ・ ポイント制になると目前での金銭の動きがないので対等の心構えになり仲間意識が生まれる気がする。

### 7．その他

- ・ 導入事例でどのような形で行われているのかは理解できたが、実際の利用率や効果があったのか等（特に10年以上経っている横浜市や近い規模の市）があると評価しやすい。

## ○課題

### 1. 事業実施までの課題

- ・ 介護保険制度の一部見直し等に伴う「有償ボランティア制度」が一部実施されているが、これらとの整合性を考慮する必要があるのではないか。（この制度実施に伴う無償のコミュニティ活動や福祉活動に与える影響について）
- ・ 制度の評価や指標をどうするのか。
- ・ 関係機関との調整
- ・ 運用に関する事務や財源
- ・ 制度設計から実施までのスピード
- ・ 制度の実施、管理機関の確保
- ・ 行政と間を取り持つコーディネーターの育成も大切（人数がかなり必要ではないか）
- ・ 名称「ボランティア」をいれるのか。
- ・ 目的などがわかりやすいネーミングがよい。
- ・ コミュニティ活動や福祉活動に取り組んでいるボランティアは、基本的に無償としていること。

### 2. ボランティアポイント制度創設の目的の明確化

- ・ 制度に関わる人材を高齢者だけとしたり、介護予防の枠組みに偏ったもので考えず、広く多世代が関われる仕組みを検討した方がよい。
- ・ いずれ自分も恩恵にあずかるかもという意識を持てるような理念での開始とするべきではないか。
- ・ 高齢者の枠組みだけで考えるのではなく、市内住民全体の問題として、解決するために様々な意見を取り入れながら作っていくのがよい。
- ・ 導入する場合、その目的、主旨の明確化（コミュニティ活動や福祉活動との差別化）が必要ではないか。

### 3. 財源確保

- ・ 利用者と活動者のマッチングのためのコーディネーターの費用
- ・ 活動者の活動開始前研修（基本ルール・目標等）費用
- ・ ボランティア保険の加入費用
- ・ 破損、汚損、紛失、コロナ感染等、トラブル時の対応費用
- ・ 有償の財源はいかがなものか、現状では先が見えない。

#### 4. ボランティアポイント制度の活動者と利用者像の明確化

- ・ 目的を理解してボランティア活動者を行う人の見込み調査
- ・ 利用する側にどのような意識の人が多いかの調査
- ・ 需要と供給がうまく回るか。
- ・ 対象者（行う側、受ける側）の明確化
- ・ 対象者をどうするか（年齢や人数を制限するのか）
- ・ ターゲットをどこに絞るのか。
- ・ ボランティア活動者の要件の整理（年齢・活動時間・可能な内容など）

#### 5. ボランティアポイント制度の対象となる行為の明確化

- ・ どのような活動に対し、ポイントを付与するのか。
- ・ 有資格者が行わなくても済むような生活支援に係る内容で検討
- ・ 地域のささえあい活動がポイントになる仕組みにしたらいいのではないか。
- ・ どの程度の活動に何ポイント付与し、どのような還元をするのか。
- ・ 活動時間等、活動内容の検討

#### 6. ポイント還元方法の明確化

- ・ ポイントの付与や交換等の管理をどうするのか。
- ・ 地域商店等にも賛同を得て、地域の既存の様々な社会資源と一緒に取り組み地域活性化を見据えた取り組みともリンクするような制度設計の検討
- ・ 簡易なポイント管理方法（スマートフォンや手帳など）が望ましい。
- ・ ポイント還元の期限として「ポイント預金」（将来自分が支援を受けるとき還元ができる）の検討
- ・ ポイントを寄附できる選択肢があってもよいのではないか。
- ・ ボランティアポイントが安価過ぎても問題が生じるのではないか。

#### 7. ボランティア活動者として登録しよう！という意識が高まる広報・研修

- ・ 社会活動への参加が介護予防になることを広報する。
- ・ 活動場所の対象となり得る施設等から資料提供や広報も検討
- ・ 人材確保を高齢者だけの枠組みで考えず、広く多世代が関われる仕組みとして広報することを検討
- ・ ボランティア・他者貢献が心に及ぼす有用性など講習に取り入れる。
- ・ 参加のしやすさを求めると研修は短いものとなるが、実際現場で必要と思うものとなると・・・？